Library News

2025年1月　　泉高校図書館

図書館閉館のお知らせ

2月19日より蔵書点検のため図書館閉館となります。

貸出返却はもちろん閲覧もできません。点検する人以外は立ち入り禁止です。

先生方も点検する人以外は立ち入り禁止です。ご注意ください。

卒業式前後も閉館の予定です。3年生は注意してください。返却は閉館前にしましょう。

開館のめどが立ち次第ご連絡します。図書委員はがんばって点検しましょう。

[369.31]

日本のほとんどの図書館では「日本十進分類表」(NDC)に基づき本を内容ごとに分類しています。本の背ラベルに書いてある数字がそれです。百の位で大まかな分類、10の位でその中の細かい分類、1の位、小数点以下とさらに細かい分類になっていきます。住所でいえば百の位が「日本」、10の位が「宮城県」、1の位が「仙台市」、小数点以下が「泉区」「将監」と、どんどん絞り込んでいくような法則です。

NDCにおいて[369]は**「社会福祉」**を示します。[369.3]は**「災害・災害救助」**です。[369.31]は**「震災・火山災害」**です。

地震の多い日本において、記録的な震災が起きるたびに「○○地震報道写真集」と題されたムック(本と雑誌の中間)が刊行されます。が、本として刊行される例は少ないです。本としての出版が目立ち始めたのは「阪神淡路大震災」からでしょうか。そして「東日本大震災」関連が多く目につきます。おそらくこの二つの災害が社会に与えた影響が大きいからでしょう。関東大震災については、近年になってエピソードが掘り起こされるようになりました。本というメディアの発展も災害記録が出版されるようになった要因でしょうか。

今年で阪神淡路大震災から30年、改めて防災を取り上げる本が出版されるようになりました。図書館にもそうした本がありますので、防災・減災の参考にしてください。災害は「いつか」ではなく「いつも」の出来事と考え備えましょう。

『チ.』について(注意喚起)

アニメ化され話題急上昇の『チ。』(魚豊 著)[726.1 U 1～8]について、野暮ではありますが注意喚起をします。

「これは史実ではありません」

本作を冬休み特別貸出で全巻借りていった生徒がいましたが、どうも本作のように地動説が迫害されていたと認識しているようで、野暮を承知で注意喚起しました。当時地動説は大っぴらに容認されてはいなかったようですが、本書のように異端として教会から厳しく弾圧されていたわけでもありませんでした。天文学も禁止されてはいませんでした。(異端に関しては、『尼僧と悪魔』(吉田八岑 著)[230 Y]や『図説魔女狩り』(黒川正剛 著)(230 K)などがお勧めです。)

ほかにも本書の中には「こんな職業あった？」「この時代にこういう活動はあった？」など疑問を感じる描写が随所にあります。それが物語の展開につながったり、感動を呼ぶ下地になったりしていて、作品の巧みさにもつながっています。また、終盤のちょっとしたシーンで史実との整合性もつけていて、史実とフィクションの配合が絶妙です。

10代のうちはこうしたフィクションを素直に受け止め、真に受けていいと思います。そして10代のうちに学んでください。天文学の歴史や中世ヨーロッパについて知ると、より本作が味わい深くなることでしょう。

今年度の貸出終了について

3年生への貸出は2月7日(金)に終了します。

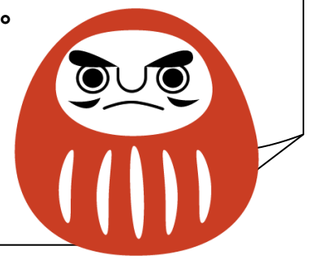
それ以降図書館の本を借りたい人は、司書に個別にご相談ください。お知らせにもありますように2月19日(水)以降は閉館です。返却はそれまでに済ませてください。

1，2年生への貸出は2月18日(火)に終了します。

お知らせにも書きましたが、それ以降は閉館ですので貸出はできません。蔵書点検が済み次第、図書館は再開館します。その時は別途通知します。

蔵書点検中は貸出返却はもとより閲覧もできません。

図書館立ち入り禁止になりますので、くれぐれもご注意ください。



新着図書一覧

『事件報道の裏側 三度のメシより事件が好きな元新聞記者が教える』（三枝玄太郎　著）［317.75　S］
『はじめての戦争と平和』（鶴岡路人　著）［319　T］
『消費社会の神話と構造 LA SOCIÉTÉ DE CONSOMMATION 新装版』（ジャン・ボードリヤール　著）［331.7　B］
『金と香辛料 中世における実業家の誕生 ；DE L'OR ET DES ÉPICES 新装版』（ジャン・ファヴィエ　著）［332.3　F］
『野鳥と木の実ハンドブック The Handbook of Birds and Fruits 増補改訂版』（叶内拓哉　著）［477　K］
『水族館飼育員のキッカイな日常』（なんかの菌　著）［480.76　N］
『コカドとミシン KOKADO & SEWING MACHINE』（コカドケンタロウ　著）［594　K］
『斉木楠雄のΨ（サイ）難』全26巻　（麻生周一　著）［726.1　A　1～26］
『山田くんとLv999の恋をする 8～10』（ましろ　著）［726.1　M　8～10］
『マダムたちのルームシェア 1～3』（seko koseko　著）［726.1　S　1～3］
『暗号解読 The code book　上巻』（サイモン・シン［著］）［809.7　S　1］
『暗号解読 The code book　下巻』（サイモン・シン［著］）［809.7　S　2］
『やさしい日本語ってなんだろう』（岩田一成　著）［810　I］
『ぎりぎり合格への論文マニュアル 新版』（山内志朗　著）［816.5　Y］
『四字熟語で始める漢文入門』（円満字二郎　著）［820　E］
『さくらのまち A Town Of Fake Cherry Blossoms』（三秋縋　著）［913　M］
『伯爵と三つの棺 The Count and the Three Coffins』（潮谷験　著）［913　S］
『戦争語彙集 Словник війни』(オスタップ･スリヴィンスキー　作)［989.46　S］

今回の新着図書は一見数が少なそうですが、**『斉木楠雄のΨ（サイ）難』**全26巻が一気到着したので冊数としてはかなり多いほうです。超能力者の主人公とその友人たちの学校生活を描いた作品で、ギャグあり友情ありの心温まる作品です。リクエストしてくれた生徒に感謝します。

『事件報道の裏側』は事件報道における常套句（「容疑をほのめかす供述」とか）の具体的な解説や、記者として目撃した警察の実態など「事件の裏側の事件」を取り扱った本です。この本を読むと「事件は警察と記者の間でも起きている」と言いたくなります。**『消費生活の神話と構造』**は私たちが「買わされている」という現実について論じたもの。社会経済学だけではなく「自己表現とは何か」にも及ぶ本です。この内容にこのポップな表紙(ちゃんと内容と関連している)、装丁が見事です。

歴史やスパイスの本でよく「〇〇は当時貴重で同じ重さの金と取引された。」という表現を見かけますが、そこに着目したのが**『金と香辛料』**。『狼と香辛料』の世界が好きな方は必読。

その昔、「兵隊にはその辺の草でも食べさせておけ」とばかりにろくな補給もなしに前線に兵を送った軍隊がありました。「その辺の草」がどれほど人間の食糧となりうるのか。そんな疑問を持ったわけではないのでしょうが、「鳥の食べる木の実を自分も食べてみよう」という姿勢で作られたのが**『野鳥と木の実ハンドブック』**。「その辺の木の実」の多くは人間には不味く、時に鳥たちも好き好んで食べているわけではないようです。秋冬の時期に山で遭難したときに役に立ちそうな本です。

『水族館飼育員のキッカイな日常』は水族館で働きたい人には必見の本。研修から日常業務、企画展示などの仕事が分かります。ちなみにこの本で水族館飼育員の生態はわかりますが、海の生き物の生態はわかりません。

『コカドとミシン』は前回ご紹介した『スーパーの食材で究極の家庭料理』同様の、趣味に情熱（とお金）を注ぐ大人男子の本です。なんといっても使っているミシンが業務用。しかし、料理や手芸の世界を女性だけのものにするのはもったいない話です。コカドさんのように男性も手作りを楽しんでほしいもの。本に載っている作品は家庭用ミシンでも作れるようなので、挑戦してみてください。

今回は『斉木楠雄のΨ（サイ）難』以外にコミック作品が２タイトル到着しました。**『山田くんとLv999の恋をする 8～10』**は生徒リクエストの続刊。ゲーム内の人間関係がリアルの人間関係につながっていく展開は今時ならでは。もはやオンラインゲームはコミュニケーションツールの一つだな、と思いました。三者三様に個性の違う妙齢のマダムたちの日常生活を描いた**『マダムたちのルームシェア 1～3』**。彼女たちはたぶん生徒の皆さんの親御さんよりちょっと上くらいでしょうか。特に事件は起きませんが、折に触れ口には出さずとも相手を思いやる姿勢はさすが「マダム」です。

『暗号解読 上巻 下巻』は情報の授業で紹介された本です。コンピュータの歴史と暗号には密接な関係があります。歴史を紐解くことで「情報」やコンピュータへの理解が深まることでしょう。暗号にまつわるドラマティックなエピソード満載です。

「さくら」という言葉の二重の意味を上手に、かつ痛みを添えて使ったのが**『さくらのまち』**。ネタバレなしに解説するのが難しい本ですが、喪失感と苦い甘さが好きな方にお勧めです。

科学の進歩は推理小説に大きな影響を与えてきました。『アクロイド殺し』しかり『すべてがFになる』しかり。あえて科学を排除するため孤島や雪山を舞台にした推理小説もあります。**『伯爵と三つの棺』**は「科学捜査以前の時代」を舞台に「三つ子の容疑者」を扱った「純論理ミステリー」ともいうべき小説。指紋やDNAの知識すらない状態で、探偵（と読者）は犯人にたどり着けるのでしょうか。

『戦争語彙集』はまさに今、戦火の下で生きているウクライナの人びとの言葉を集めたもの。「妊娠」「ココア」「猫」……日常にある言葉が戦争を語ります。「マダムたちルームシェア」の日常をこの語彙で語ったらどうなるだろうか、と考えてしまいました。他人事扱いしてはいけないことですが、自分が生きている間は経験したくありません。職員からのリクエストでした。